

自然再興 戦略ハンド ブック

企業のための
実践的なガイド

バージョン
2023年11月

今こそ自然
再興のために

このハンドブックについて

自然再興戦略ハンドブックの目的は、企業であれ金融機関であれ、すべての企業が、ネイチャーポジティブの世界に向けて有意義な貢献ができるよう、自然再興戦略を進めることを支援することです。

このハンドブックは、すべての企業が自然再興のために行動し、2030年までに生物多様性の喪失を食い止め、反転させるという昆明-モントリオール生物多様性枠組のミッションに貢献するよう呼びかけるグローバルキャンペーン「今こそ自然再興のために」の基礎となるものです。企業は、「[今こそ自然再興のために](#)」ウェブサイト で戦略を提出するよう奨励されています。この戦略の提出で、キャンペーンに参加することができ、また増え続けている、自然再興に関する企業活動を拡大・加速することの必要性を認識する企業の仲間入りができます。

自然再興戦略ハンドブックは、[ACT-Dの自然再興に関するハイレベル企業行動](#)（評価、コミット、変革および開示）に基づき、信頼できる自然再興戦略の主要な構成要素を示しています。

各ステージについて深く掘り下げ、自然再興に関する戦略を策定するための指針となる質問、推奨事項、リソースを提供します。それらは、独立の戦略文書であれ、事業戦略、気候変動戦略、持続可能性戦略に含まれるものであれ、自然再興に関する戦略を策定するための指針となるものです。

コンテンツは、[CSRD（企業の持続可能性報告に関する指令）](#)、[TNFD（自然再興関連の財務開示情報に関するタスクフォース）](#)、[科学的根拠に基づく目標ネットワーク（SBTN）](#)、[NAI00](#) その他の主要な枠組や開示要件など、現行の自然再興関連枠組および規制の要件に合わせて開発されています。自然再興戦略ハンドブックは、利用可能なリソースと要件に基づき、すべての企業が、自然再興のための戦略を設定することによって、ネイチャーポジティブな未来をめざす取組みを開始する、または継続するための共通の方向性を提供します。

目次ページ

自然再興戦略ハンドブックの使い方 3

ACT-Dとは? 3

自社の自然再興戦略に...

評価 4、5
コミット 6
変革 7、8、9
開示 10

を含める方法

用語集 11、12、13

自然再興戦略 ハンドブックの使い方

自然再興戦略ハンドブックは、ACT-Dに記載された次の4つのハイレベルなビジネスアクションに従います：評価、コミット、変革および開示。この4つは、企業がネイチャーポジティブな世界に貢献するために取るべき行動をまとめたものです。このハンドブックは、これらの4つのアクションをさらに4つのパートに分類することで、読者が4つのアクションを自然再興戦略の中に組み込めるよう案内しています：

1 ステップ：

自然再興戦略ハンドブックは、ACT-Dの4つのハイレベルアクション（評価、コミット、変革および開示）によって構成されています。これらのハイレベルのアクションそれぞれは、自然再興戦略の内容をまとめた主要なステップに分けられます。

2 指針となる質問：

各ステップには、企業が自然再興戦略を策定するために必要な情報を特定するのに役立つ指針となる質問があります。これらの指針となる質問は、初めて戦略を策定する企業にとって有用な出発点であり、社内の戦略ワークショップで議論する際の質問として利用できます。

3 推奨事項：

推奨事項は、指針となる質問に応じて、信頼できる自然再興戦略に含めるべき内容を明確にしています。

4 外部リソース：

外部リソースは、広く使用されている自然再興関連の枠組みやアプローチに関する参考文献とリンクを提供しています。企業は、これらのリソースを利用して、推奨事項に従って自然再興戦略を策定するようにすべきです。

大まかに論理的な順序に従っていますが、このハンドブックは自然再興戦略を描くためのデザインテンプレートではありません。このハンドブックは、戦略内のコンテンツの順序と流れをコントロールする責任を企業自身に委ねています。

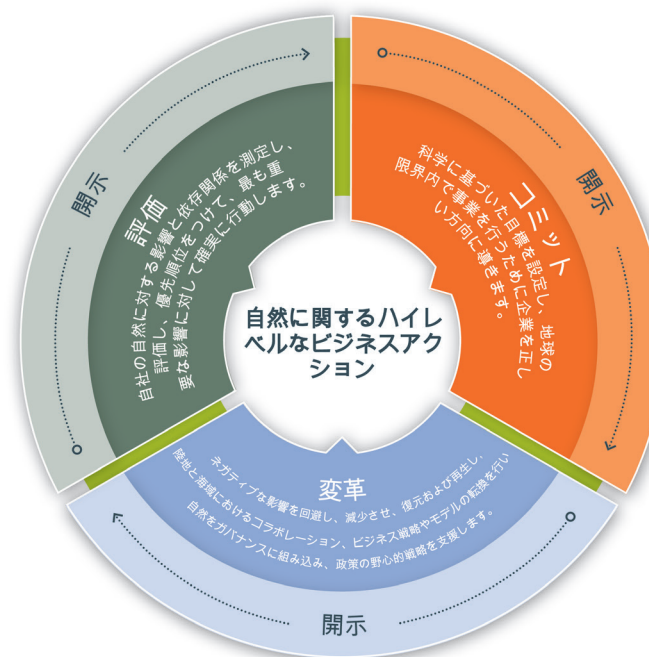
巻末に用語集があります。

ACT-Dとは？

ACT-Dとは、**自然再興に関するハイレベルのビジネスアクションのことで**：評価、コミット、変革および開示は、**資本連合、ビジネス・フォー・ネイチャー、WBCSD(持続可能な開発のための世界経済人会議)、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)、科学に基づく目標ネットワーク、世界経済フォーラムおよびWWF(世界自然保護基金)**の協力のもと開発され、多くの主要組織が支援しています。

このハンドブックの内容は、ACT-Dに基づいて、企業が将来を見据えた自然再興戦略をどのように設定し、どこで最も有用なツールや専門知識を見つけることができるかを示しています。

ACT-Dは、企業が自然再興との関係を評価し、目標を設定し、生物多様性を回復および再生させながら負の影響を回避し、削減するための行動をとることを支援するための様々なツールや枠組、イニシアティブを通じて企業をガイドします。



自然再興戦略に「評価」を含める方法 [1/2]

自社のビジネスモデルに関連する自然への重大な影響と依存関係を明確にします。自社のビジネスモデル、戦略、および財務計画にどのような影響を及ぼすかについて、重大なリスクと機会を概説します。自社の自然再興戦略が、自社のビジネスモデルやより広範な企業戦略（気候危機や貧困・格差などの問題を含む）とどのように統合されているかを説明します。

ステップ	取り組みに優先順位付けるために最初の重要度評価を実施する	自然に対する影響と依存性を測定し、評価する
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然に対するインパクトと依存性を特定するために、最初の重要度評価をどのように行い、どのような重要度の閾値（基準値）を使用しましたか？ 2. 重要な影響と依存関係はどのようなものであり、それらはバリューチェーンのどこで発生していますか？ 3. 自社の重要な影響と依存関係はいつ（短期的、中期的、長期的に）発生すると予想されますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な影響や依存関係はどの地理的な場所で起こり、それらは影響を受けやすい地域と重複していますか？ 2. 自然再興に対する重大な影響と依存性を測定し、評価するために、どのような方法論を用いて、どのくらいの期間をかけて行っていますか？ 3. 重大な影響や依存関係を測定し、評価するために、どのような指標を使用していますか？ 4. 重大な影響と依存性はどの程度ですか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> □ 重要度評価の範囲は、以下を含みます： <ul style="list-style-type: none"> - 活動 - 影響の大きい商品 - バリューチェーン（アップストリーム、ダウンストリーム、直接の関係者） - 地理的な位置 □ 自然再興アセスメントの範囲を長期的に拡大する計画 □ 重大な影響と依存関係の概要 □ 自社のバリューチェーンにおける重大な影響および依存関係がある段階 	<ul style="list-style-type: none"> □ 自社の重大な影響や依存関係が発生する場所の概要 □ これらの場所のどれが自然再興にとって影響を受けやすい地域内にあるかについての概要 □ 使用した指標や測定基準を含む、重大な影響や依存関係の評価
リソース	<p>ENCOREエクスプロールツール</p> <p>SBTNステップ1テクニカルガイドライン [ステップ1A: 重要度評価 (p.30)]</p> <p>自然再興資本プロトコルのスコープの段階</p> <p>TNFD: 自然再興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [場所: L1 (p.43)、L2 (p.46)]</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.9)]</p> <p>自然再興に対してポジティブな未来に向けてのBfNセクター活動</p>	<p>自然資本プロトコル [計測と価値ステージ]</p> <p>SBTNステップ1テクニカルガイドライン [ステップ1B: バリューチェーン評価、(p.54)]</p> <p>SBTNステップ2テクニカルガイドライン [ステップ2B: インタープレットとランク (p.34)]</p> <p>TNFD: 自然再興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [場所: L3 (p.50)、評価: E1 (p.69)、E2 (p.71)、E3 (p.78)]</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.10)]</p>

自然再興戦略に「評価」を含める方法 [2/2]

自社のビジネスモデルに関連する自然への重大な影響と依存関係を明確にします。自社のビジネスモデル、戦略、および財務計画にどのような影響を及ぼすかについて、重大なリスクと機会を概説します。自社の自然再興戦略が、自社のビジネスモデルやより広範な企業戦略（気候危機や貧困・格差などの問題を含む）とどのように統合されているかを説明します。

ステップ	リスクと機会を評価する	自然再興評価の中で気候危機や貧困・格差などの問題を考慮する
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 最初の重要度評価に基づいて、自社の重要な自然再興関連のリスクと機会はどのようなもので、それらは御社のバリューチェーンのどこに存在していますか？ 自社にとって、重要な自然再興に関連するリスクや機会があるのはいつ（短期的、中期的、長期的に）だと予想されますか？ 自社にとって、重要な自然再興関連のリスクと機会があるのは、どの地域ですか？ 自社の重大なリスクや機会を監視し、評価するために、どのような指標を使用していますか？ 自社の重要なリスクと機会は、ビジネスモデル、バリューチェーン、戦略、財務計画、移行計画にどのように影響を与えますか？ 自社の自然再興関連のリスクや機会が、現在または将来的に財務に与える影響にはどのようなものがありますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 評価の中で、気候危機や貧困・格差などの問題をどのように考慮しましたか？ 直接的な事業およびバリューチェーンの中で、先住民や地元コミュニティに対する潜在的な影響を評価しましたか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> □（自社の影響や依存関係に基づく）自社の重要な自然再興関連のリスクと機会 □ 自社のバリューチェーンのどこに自社の重要な自然再興関連のリスクと機会が存在するか、および影響を受ける主要な地理的場所 □ 自社の重要なリスクと機会が自社のビジネスモデル、戦略、財務計画、移行計画にどのように影響するか □ これらの重要なリスクと機会を評価し管理するために使用している方法論と指標 	<ul style="list-style-type: none"> □ 重大な自然再興に関連する影響、依存性、リスク、機会に関する評価において、内部および外部のステークホルダーとどのように相談したかについての説明（これには、これらのステークホルダーが特定した主要な問題および関心事、および評価の際に取られた対応措置が含まれます） □ ステークホルダーの記述は、バリューチェーン全体を表すものであり、以下の関連するものを含むものでなければなりません： <ul style="list-style-type: none"> - 従業員 - 事業活動または調達活動の場所に隣接するコミュニティ - 遠方ではあるが、自社の環境へのインパクトによって影響を受けているコミュニティ - 顧客 - 専門家およびNGO - 先住民 - 調達元/サプライヤー - 女性と少女 - その他関連する重要なもの □ 評価作業の中で、いかに気候変動と公正な移行について検討したか（注：トランスフォーームの所で詳細について説明）
リソース	<p>TNFD: 自然再興に関連する問題の識別と評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [評価: A1 (p.101)、A2 (p.113)、A3 (p.117)]</p> <p>WWFリスクフィルタースイート</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [評価 (p.13)]</p> <p>CISL NBS診断ツール</p>	<p>SBTN利害関係者エンゲージメントガイドライン</p> <p>TNFD: 先住民、地域コミュニティおよび影響を受けた利害関係者との関わりに関するガイドライン</p> <p>IUCNの自然再興ベースのソリューションのためのグローバルスタンダード</p>

自然再興戦略に 「コミット」を含める方法 [1/1]

ネイチャーポジティブな世界に貢献するという企業としての野心の概要を提供します。自然再興のために設定した目標、それらの達成期間および主要なマイルストーン、それらが関連するインパクト、依存関係、リスクまたは機会、および進捗のモニタリング計画の概要を含みます。

ステップ	野心と目標を定義する	ターゲットを設定
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然再興戦略に対する野心はどのようなものですか？また、この戦略が自然再興と事業にどのような影響を与えることを望んでいますか？ 2. この野心は、ネイチャーポジティブな未来（および昆明-モンリオール生物多様性枠組の目標やターゲット）と一致していますか？ 3. この野心を達成するためのタイムラインはどのようなものですか？ 4. 自然再興に対して行動を起こすための企業の理由は何ですか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野心の達成に貢献するために、どのような目標を設定していますか？また、企業とバリューチェーンのどの部分に関連していますか？ 2. ターゲットは、どのような影響、依存、リスク、機会に関連していますか？ 3. 目標に向けた進捗状況をどのように監視、評価し、開示しますか？ 4. 他の目標（例：気候、社会、その他の持続可能性目標）が自然再興の目標と関連しているかどうかを考えたことがありますか？
推奨事項（戦略に含めるべきもの）：	<ul style="list-style-type: none"> □ 行動を起こすための理由づけを含む自然再興への野心の声明 □ 自然再興に関する野心が、2030年までのネイチャーポジティブな世界に貢献し、昆明-モンリオール生物多様性枠組の目標およびターゲットとどのように整合するかについての説明 	<ul style="list-style-type: none"> □ 設定した自然再興に関連するターゲット（SMART）は、次のようになります： <ul style="list-style-type: none"> - 御社の自然再興志向とどのように関連しているか - 地理的な位置（重要な場合）、およびそれらが関連する企業およびバリューチェーンの部分 - 影響、依存性、リスク、機会（評価によって特定）に関連するもの - すべてのマイルストーンまたは暫定目標を含む目標を達成するためのタイムフレーム - 第三者の利害関係者によって検証されているかどうか、そして/または科学に基づいているか、科学に準拠しているかどうか、まったくそうでないか □ 各ターゲットに使用される測定基準、KPI、基準値、基準年（該当する場合）、および情報の空白を埋めるための計画を含む、目標に対する進捗状況を監視、評価し、開示するための計画 □ 自然再興目標と気候目標がどのように互いに支え合うか
リソース	昆明・モンリオール生物多様性枠組	TNFD：自然再興に関連する問題の特定および評価に関するガイドライン：LEAPアプローチ [準備：P2 (p.145)] SBTN ステップ3：ターゲットの測定、設定および開示 ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ - すべての企業のための基礎 [コミットと変革 (p.25)]

自然再興戦略に 「変革」を取り入れる方法 [1/3]

自然再興との関係を管理し、目標を達成し、自然再興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。御社の戦略策定にあたり、どのステークホルダーと関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	回避と削減	回復と再生
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然再興に対する悪影響を避けるために、どのような行動をとっていますか？ 2. 自然再興に対する悪影響を減らすために、どのような行動をとっていますか？ 3. これらの行動は、御社の重大な影響、依存関係、リスク、機会にどのように関連し、それらを管理していますか？ 4. これらの行動の進捗状況をどのように監視し、評価していますか、そしてそれらが御社の野心的な目標とどのように関連していますか？ 5. 回避したり削減したりすることができない重大な影響はありますか？その理由は何ですか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然を回復し再生するために、御社はどのような行動をとっていますか？ 2. これらの行動は、自社のインパクト、依存関係、リスク、機会とどのように関連していますか？ 3. これらの行動の進捗状況をどのように監視し、評価していますか、そしてそれらが自社の自然再興志向目標とどのように関連していますか？
推奨事項(戦略に含めるべきもの):	<p>□ 重要度評価に基づいて、自然に対する影響を回避し、軽減するために取っている行動について、次のように説明します:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 対象となる活動と場所 - これらの行動がどのように認識された影響、依存関係、リスク、機会を管理するか - これらの行動が事業とバリューチェーンとどのように関連しているか - これらの行動が自社の自然再興への野心的な目標にどのように関連しているか - 進捗を確認するために、これらの行動をどのように監視し、評価するか (使用する指標を含む) 	<p>□ 重要度評価に基づいて、自然を回復・再生するために取っている行動について、説明します:</p> <ul style="list-style-type: none"> - 対象となる活動と場所 - これらの行動は、特定された影響、依存関係、リスク、機会をどのように管理するか - これらの行動が事業とバリューチェーンとどのように関連しているか - これらの行動が自社の自然再興への野心的な目標にどのように関連しているか - 進捗を確認するために、これらの行動をどのように監視し、評価するか (使用する指標を含む)
リソース	<p>SBTN初期企業ガイドライン [Act (p.4)] ネイチャーポジティブ(自然再興)への未来に向けたセクターアクション</p>	<p>SBTN初期企業ガイドライン [Act (p.4)] ネイチャーポジティブ(自然再興)への未来に向けたセクターアクション</p>

自然再興戦略に 「変革」を取り入れる方法 [2/3]

自然再興との関係を管理し、目標を達成し、自然再興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。御社の戦略策定にあたり、どのステークホルダーと関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	企業戦略とモデルの転換	御社のバリューチェーンに沿って、陸域、海域、河川流域の生態系において協働する
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特定された自然再興に関連するリスクと機会を管理するために、どのような行動をとっていますか？ 2. 自然再興に関連するリスクと機会に対する自社の行動に関連する選択肢とトレードオフは何ですか？ 3. ネイチャーポジティブな世界に貢献するために、企業戦略やモデルをどのように適応させていますか？ 4. 変革を実現するためには、どのような資源と財務的/組織的变化が必要ですか？ 5. 御社の自然再興戦略は、気候、社会、そしてより広範な企業戦略とどのように統合され、またそれらを、支援していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. どのように自然再興に関わる自社のバリューチェーンに関わり、協力していますか？ 2. 地域環境レベルで改善された自然再興の結果を生むために、ステークホルダーとどのように協力していますか？ 3. この戦略の設計において、他のステークホルダーの視点をどのように考慮しましたか？ 4. 自然再興に対する活動を推進するために他の企業をどのように支援していますか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの) :	<ul style="list-style-type: none"> □ 重要な自然再興関連のリスクと機会を管理するために御社が取っている措置 □ 自然再興に関連する影響、依存関係、リスク、機会に対する企業戦略とモデルの柔軟性 □ 影響、依存関係、リスク、機会を管理するための措置の一環として、企業戦略やモデルに対して行う変更 □ この変革に必要な資源または財務的/組織的变化 □ 自社の自然再興戦略が、気候、社会、およびより広範な企業戦略を統合し、支援する方法 	<ul style="list-style-type: none"> □ バリューチェーンや他のステークホルダーとどのように関わり、協力し、回避、削減、再生、回復するか □ (自然再興に関連する影響、依存性のリスクおよび機会に対応する) 戦略の設計において協議した社内外のステークホルダー、これらの特定のステークホルダーによって特定された主要な問題および関心、ならびにステークホルダーの懸念および関心に対応するために講じた措置-これらのステークホルダーは、バリューチェーン全体を代表し、以下に列挙するすべてのステークホルダーのうち、関連があり重要なものを含むべきである： <ul style="list-style-type: none"> - 従業員 - 事業活動または調達活動の場所に隣接するコミュニティ - 遠方ではあるが自社の環境への影響によって影響を受けているコミュニティ - 顧客 <ul style="list-style-type: none"> - 女性と少女 - 専門家およびNGO <ul style="list-style-type: none"> - 調達元/サプライヤー - 先住民族 <ul style="list-style-type: none"> - その他関連する重要なもの □ 自社の自然再興に関連する活動によって影響を受けるステークホルダーがどのように公式に関与しているか
リソース	<p>TNFD: 自然再興に関連する問題の特定および評価に関するガイドライン: LEAPアプローチ [準備: PI (p.139)]</p>	<p>SBTN利害関係者エンゲージメントガイドライン TNFD: 先住民族、地域コミュニティおよび影響を受けたステークホルダーとの関わりに関するガイドライン 追跡可能性に関する国連グローバルコンパクトガイド IUCNの自然再興ベースのソリューションのためのグローバルスタンダード ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.27)]</p>

自然再興戦略に 「変革」を取り入れる方法 [3/3]

自然再興との関係を管理し、目標を達成し、自然再興への野心を実現するために取り組む行動について説明します。自社の戦略策定にあたり、どのステークホルダーと関わっていたのか、そして将来の関わり方についての計画を説明します。ガバナンス構造と、戦略を事業全体で確実に実行するための実際的な仕組みを概説します。

ステップ	野心的な政策とイニシアティブの提唱	御社の企業ガバナンスに自然復興を組み込む
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自社のアドボカシー活動は、生物多様性枠組の目標やターゲットとどのように合致していますか？ 2. 自社の業界団体の立場は、どのようにして自然復興への野心と一致し、生物多様性枠組の目標とターゲットの意欲を支援していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. この戦略に対する監督および責任を負うガバナンスおよび管理機関はどのようなものでしょうか？ 2. 戦略の進捗状況をガバナンス機関や広範なステークホルダーに知らせるために、どのような報告体制をとっていますか？ 3. 全体的なリスク管理プロセスに自然再興がどのように統合され、この戦略を実現するために追加のポリシー、枠組、手順、リソースが設けられていますか？ 4. どのようなステークホルダーの参画および苦情処理プロセスがあり、誰がそれらの責任を負っていますか？
推奨事項 (戦略に含めるべきもの):	<ul style="list-style-type: none"> □ 自社が取り組んでいる自然復興に関連するアドボカシー活動の概要 □ 自社のアドボカシー活動が、自社の自然再興志向と、生物多様性枠組の目標やターゲットの志向とどのように一致しているのか、および整合性がとれていない理由 □ 自社がメンバーである主要な業界団体の概要とそれらが御社の野心にどのように合致しているか 	<ul style="list-style-type: none"> □ この戦略を監督する取締役会および/またはエグゼクティブマネジメントレベルの委員会 □ この戦略に照らして取られた行動を管理し、監視するためのプロセス □ 管理、経営、および監督機関の監督機能を実行し、重要な影響、依存関係、リスク、および機会を管理するプロセスについて報告を受けるための役割と責任、特にこれらのプロセスにおける経営陣の役割についての説明 □ 自然再興に関連する業績がインセンティブ制度に組み込まれているかどうか □ 自然再興に関連するリスクを識別、評価、優先順位付け、管理するプロセスと、およびこれをリスク管理プロセス全体にどのように組み込むか □ ステークホルダーの参画を含め、本戦略を実施・伝達するために設けられている追加の方針、枠組み、手順 (人権方針および苦情処理メカニズムを含む)、およびリソース
リソース	<p>自然再興のための企業の政策推奨事項</p> <p>Metabolic Nature-based Solutions Policy Tracker (メタボリック自然復興ベースのソリューション政策トラッカー)</p> <p>We Mean Business: A Framework for Responsible Policy Engagement (責任ある政策関与のための枠組み)</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.29)]</p>	<p>TNFD: 自然再興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v1.0</p> <p>ネイチャーポジティブ(自然再興)へのWBCSDロードマップ-すべての企業のための基礎 [コミットとトランスフォーム (p.27)]</p>

自然再興戦略に「開示」を含める方法 [1/1]

戦略が信頼できるようにするために取っているステップを概説します。戦略に対する成果を伝えるために、主要な報告基準とどのように整合させるかを説明します。

ステップ	行動の信頼性を高めるために独立した検証と確認を求めます	主要な報告基準に沿った報告
指針となる質問	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然再興戦略および情報開示について、どのように内部保証および独立した外部保証を求めたか、または求める予定ですか？ 2. その他の自然再興に関する取り組み、認証、認定で連携しているもの、または要件を満たしているものはありますか？ 3. 自然再興のターゲットについて、独立した検証機関とどのように連携していますか？ 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在、どのような自主的・義務的な自然再興関連報告基準に照らして報告していますか、または今後報告する予定ですか？ 2. 自然再興に関連する報告の範囲はどのようなものですか？
推奨事項(戦略に含めるべきもの):	<ul style="list-style-type: none"> □ 自然再興戦略および開示のうち、内部保証および独立した外部保証を求めた／求める予定の部分と、その保証を誰が提供したかの説明 □ 現在、自然再興のターゲットを検証するために独立した機関と協力しているか、または協力する予定があるかについての詳細 □ 戦略の他の要素でカバーされていない、自然再興に関するイニシアチブ、認証または認定で、連携しているもの、または要件を満たしているもの（例えば、地域または国の認証／イニシアチブなど） 	<ul style="list-style-type: none"> □ 現在報告している、または将来報告する予定の自主的および/または義務的な（該当する場合）自然復興に関連する報告基準 □ 自然復興に関連する報告の範囲（もしあれば）およびそれらが関連する事業およびバリューチェーンの部分について
リソース	<p>TNFD: 自然再興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v.1.0</p> <p>読者向けのSBTNガイド</p> <p>ENCOREエクスプロールツール</p> <p>自然再興に関するハイレベルなビジネスアクション</p>	<p>自然再興に関するハイレベルなビジネスアクション</p> <p>TNFD: 自然再興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v.1.0</p> <p>TNFDの推奨事項の採択からスタートする</p> <p>WBCSDのTNFDパイロット: 23のグローバル企業とのTNFDのパイロット活動からの教訓</p> <p>CDP報告および情報開示ガイダンス</p>

用語集

自然再興への野心

企業が自然に対する影響、依存、リスクと機会に対処するためのコミットメントと計画を明確にし、ネイチャーポジティブで、ネット・ゼロで、公平な世界に貢献することを宣言する文書。それは戦略を導き、従業員に権限を与え、利害関係者に情報を提供します。

回避および削減

回避：影響を最初に予防し、影響を完全に排除します。

削減：影響を完全に排除するまではいかないが、以前の基準値に比べて影響を最小限に抑えます。

Science Based Target Network (2023) [SBTN用語の用語集](#)

依存関係

組織またはその他の関係者が機能するために依存している生態系サービスの側面。依存関係には、生態系の、水流、水質、火災や洪水などの災害を調整する能力、花粉媒介者に適した生息地を提供する能力（花粉媒介者は経済に直接サービスを提供する）、炭素を隔離する能力（陸域、淡水域、海洋域）などが含まれます。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5 \(d\) を実施する方法に関する政府への勧告](#)

インパクト（影響）

自然再興の状態の変化は、自然再興が社会的および経済的機能を提供する能力に変化をもたらす可能性があります。インパクトはポジティブまたはネガティブなもので、実際に起こる可能性もあるし、または潜在的なものかもしれません。それらは、組織または他の当事者の行動の結果であり、直接的、間接的、または累積的なものである可能性があります。これらのインパクトは、企業にとって財務的に重要である場合もありますが、必ずしもそうとは限りません。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5 \(d\) を実施する方法に関する政府への勧告](#)

公平な移行

高炭素経済から低炭素経済への移行において、いかなる人々、労働者、場所、部門、国、地域も取り残されないようにすることを目的とした一連の原則、プロセス、実践。

IPCC、2022年： [附属書I: 用語集](#)

マテリアリティ

重要度や重大性を見分ける方法です。

普遍的に合意された定義はありません。企業は、報告管轄地域の規制当局が提供するマテリアリティに関する定義ガイダンスを利用すべきです。ガイダンスがない場合、TNFDは、組織が基準として一般財務報告書の利用者にとって重要な情報を特定するためのISSBのアプローチを適用することを推奨します。ISSBの基準に加えて情報を特定するために、異なるマテリアリティアプローチで報告したい、または報告する必要がある企業は、インパクトマテリアリティアプローチを適用することができます。インパクトマテリアリティについては、TNFDは、GRIの持続可能性報告基準の言語とアプローチに、その勧告（および追加のガイドライン）を一致させました。昆明-モンリオール生物多様性枠組の目標5に準拠しようとする企業は、グローバル基準に加える情報を特定するためにインパクトマテリアリティの視点を適用することを検討しようとするでしょう。

国際財務報告基準 (2023年) [IFRS S1: 持続可能性に関連する財務情報の開示に関する一般的な要件](#)、GRI (2021) [GRI I: ファウンデーション2021、セクション2.2](#)

用語集 [cont.]

自然

自然は、地球上のすべての生命が依存する四つの領域の構造を通して理解できます：大気、淡水、陸地、海洋。

自然には、自然資源と生態系の健康、豊かさ、回復力を支える生物多様性が含まれています。私たちは、生物多様性の喪失が生物多様性の喪失全体の重要な要素であることを認識しています。

Business for Nature (2023) [The Business Case for Nature](#)

ネイチャー ポジティブ (自然再興)

ネイチャーポジティブ(自然再興)は、2030年までに生物多様性の喪失を止め、反転させ、自然復興(種や生態系)が減少するのではなく、回復され、再生されることを目指しています。これは、生物多様性に対してネットポジティブであり、種、生態系およびプロセスの健康、豊かさ、多様性および回復力が直接かつ測定可能に増加する結果を指します。生物多様性のグローバル目標は、2030年までに生物多様性の喪失を反転させることであり、2030年までにネイチャーポジティブ(自然再興)と表現されることです。この野心は、2022年12月に国連生物多様性条約の196カ国によって採択された昆明・モントリオール生物多様性枠組のミッションに定められています。

Nature Positive Initiative

自然再興に関 連する機会

自然再興に関連する機会は、自然再興に対する影響と依存関係によって生み出され、発生する可能性があります：

- 例えば、組織と社会が依存している自然や生態系サービスの喪失に関連する自然再興に関連するリスクを回避、削減、緩和または管理する場合
- 生物多様性の回復、再生、自然再興に基づくソリューション(nature-based solutions)の実施などを含め、自然の喪失を反転させるために積極的に取り組むビジネスモデル、製品、サービス、市場、投資の戦略的変革を通じて。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5\(a\)を実施する方法に関する政府への勧告](#)

自然再興に関 連するリスク

自組織および他組織の自然への影響と依存に関連する、組織にもたらされる潜在的脅威。これらの脅威は物理的リスク、移行リスク、システムリスクにより引き起こされる可能性があります。リスクは、通常、企業と環境との関係(歴史的に、現在または将来の)に起因する、将来のまたは予想される企業への影響に関連しています。

BfN (2023) [生物多様性枠組の目標5\(a\)を実施する方法に関する政府への勧告](#)

再生および 回復

再生：生物物理学的機能および/または、生態系やその構成要素の環境生産性を向上させるために、既存の土地利用方法の範囲内で計画された行動。多くの場合、特定の自然再興の人間への貢献に焦点を当てている(例えば、炭素隔離、食糧生産、再生型農業における窒素・リン保持量の増加など)

回復：生態系の健全性、完全性、持続可能性に関して、永続的な状態の変化に焦点を当て、生態系の回復を開始または加速します。

科学的根拠に基づいたターゲットネットワーク (2023) [SBTN用語の用語集](#)

用語集 [cont.]

影響を受けやすい領域

企業の直接の事業、および可能であれば上流・下流のバリューチェーンの資産および/または活動が、自然とかわる場所：

- ・生物多様性にとって重要な地域;および/または
- ・生態系の完全性が高い地域;および/または
- ・生態系の完全性が急速に低下している地域;および/または
- ・物理的な水のリスクが高い地域;および/または
- ・先住民、地域コミュニティ、ステークホルダーへの便益を含む、生態系サービスの提供にとって重要な地域。

TNFD (2023) [自然復興に関連する財務開示に関するタスクフォースの推奨事項 v1.0](#)

SMART (ターゲット)

Specific (具体的)、Measurable (測定可能)、Achievable (達成可能)、Realistic (現実的)、Timely (適時)の頭文字をとったもの。スマートなターゲットは、これらのすべての基準を取り入れています。

ステークホルダー

プロジェクトによって直接的または間接的に影響を受ける個人またはグループ、およびプロジェクトに利害関係を持つ可能性のある人々、および/または肯定的または否定的にその結果に影響を与える能力を持つ可能性のある人々。

ターゲット

具体的な定量的かつ期限付きの目標で、できれば測定手段を定めたもの。

科学的根拠に基づく目標ネットワーク (2020) [自然復興のための科学的根拠に基づく目標：企業に向けた初期的なガイダンス](#)

トランスフォーム (変革)

トランスフォームは、ACT-Dで特定された自然復興に関する4つのハイレベルなビジネスアクションの1つです。ACT-Dの「トランスフォーム (変革)」は、「負の影響を回避・削減し、陸域・海域・河川流域の連携を回復・再生し、事業戦略とモデルを転換し、政策的野心を提唱し、戦略を企業ガバナンスに組み込むことで、システムの変革に貢献する」ためのステップで構成されています。

バリューチェーン

報告企業のビジネスモデルとその企業が運営する外部環境に関連する相互作用、リソース、および関係のすべて。

バリューチェーンとは、企業がその製品やサービスを構想から提供、消費、使用終了に至るまで創造するために使用し、依存する相互作用、資源、関係を包含するもので、人的資源などの企業の事業における相互作用、資源、関係、材料やサービスの調達、製品やサービスの販売や提供などの供給、マーケティング、流通経路における相互作用、資源、関係、企業が事業を行う金融、地理的、地政学的、規制的環境などが含まれます。

国際財務報告基準 (2023) [S1 持続可能性に関連する財務情報の開示に関する一般的な要件](#)

Business for Nature

「自然再興戦略ハンドブック」は、「[今こそ自然再興のために](#)」キャンペーンの一環として製作されました。

このハンドブックは、Business for Natureが、PwC UK (キャンペーンの公式ナレッジパートナー)と協力して開発しました。

私たちは、このハンドブックが、あらゆる規模と地域の企業が自然再興戦略を開発し、公表するための有用なリソースを提供し、自然再興に対してポジティブでネットゼロ、公平な未来への変革を加速するのに役立つことを望んでいます。

このハンドブックは、Business for Natureが貴重な貢献に感謝したいと考えている多くの組織や個人からの投稿やフィードバックを活用しています。「自然再興戦略ハンドブック」の翻訳にご協力いただいた関 正雄氏と損害保険ジャパン株式会社に感謝いたします。この分野は急速に進化している状況であるため、現在入手可能な最善の情報を用いて、その全体像を把握することに全力を尽くしました。ハンドブックに記載されている情報は、時間の経過とともに変更される可能性があります。

著作権：2023年11月にBusiness for Natureによって発行されました。この出版物の全部または一部を複製する場合には、Business for Natureのタイトルとクレジットが記載されなければなりません。

テキスト © Business for Nature 2023.

PwCについて

「PwC」とは、英国の会員会社を指し、PwCネットワークを指す場合があります。各会員企業は個別の法人です。詳細については www.pwc.com/structure をご覧ください。

本書は、関心事項に関する一般的なガイダンスを目的として作成されたものであり、専門的なアドバイスを提供するものではありません。特定の専門的なアドバイスを得ることなく、この出版物に含まれる情報に対して行動するべきではありません。本書に含まれる情報の正確性または完全性に関して、(明示または黙示を問わず)いかなる表明または保証も行われるものではなく、法律で認められている範囲において、著者および販売業者は、本書に含まれる情報を信頼した、または信頼した情報に基づいた決定を行った、または行わなかったことによる利用者または他者の結果について、いかなる責任、責務、注意義務も負うものではありません。

今こそ自然
再興のために